

公益財団法人 にいがた文化の記憶館

2019年度 事業計画

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

展示事業

[概略]

年間の開館日は255日間、休館日は111日間。展示替えのための休館日は、約2週間を充てたい。

2019年度は、4月2日から企画展示4本と常設展示（前後期に展示替え）を計画。夏の企画展示は国民文化祭プレイベントとして、秋の企画展示は国民文化祭の県委託事業として位置づけられます。

イベント事業

[概略]

2019年度は国民文化祭開催を視野に入れた事業を企画。企画展示の関連事業では、協力顕彰館や団体などからゲストを招いて講演会など、年間数本を予定。

調査及び研究・研修事業

[概略]

展示室内で紹介している文化人を中心とした基礎データを基にデータベースを整備し、さらなる調査を進めていきたい。

あわせて、館運営の質を向上させるため、また他館との連携を強化するために、職員研修の機会を拡充したい。

教育普及事業

[概略]

月に一度の解説会「月いちレクチャー」は、リピーターと新規顧客を増やすため、企画展示と連動して開催する。特別講師を招いてのレクチャーも計画している。

講演会や、2018(平成30)年に作成した「にいがた偉人かるた」と副読本をあわせた出前授業のPRをしていきたい。

(1) 学芸員等による解説会「月いちレクチャー」

開催は、毎月第4土曜日 午後2時から午後2時30分（原則）

(2) 講演会など

学校や公民館などの教育機関や各種団体の要請により、館長、事務局長、学芸員が対応（随時受付可）。その際、当館の企画展示PRや、副読本や関連図、かるた等

の販売なども実施したい。

2017(平成 29)年度からの継続事業として、神林館長の美術講座を開催する。2019 年春季は「古都の仏たち 會津八一のうたとともに」(全 4 回)を 5 月から 8 月にかけて開催予定。

(3) 副読本を活用した講演会、出前授業など

2017(平成 29)年度に副読本『みんなで伝えよう にいがた文化の記憶』(2015 [平成 27] 年 7 月発行) PR 用に文化人似顔絵パンフレット(A3 二つ折り、カラー)を作成した。2018(平成 30)年度に文化功労者が増えたことから、同年度に改訂版を作成して 2019 年度の新中学 1 年生に配布予定。

2018(平成 30)年度に「にいがた偉人かるた」を作成した。2019 年度は小学生にも馴染みやすい教材として、副読本と一緒に活用できるように出前授業を計画し、県内の小中学校に提案していきたい。

2015(平成 27)年度に続き、新潟県立教育センターの既存事業「学ぼう新潟の知恵」に職員が登録。学校の要請に応じて副読本を活用した出前授業に対応する。

連携・交流事業

[概略]

サテライト展示(PR 出張展示)への参加促進を進めるにあたり、2015(平成 27)年秋から開始したテレビやラジオ、新聞での広報展開を継続していきたい。その際、県内顕彰施設および団体との具体的な連携がとれるよう、広く意見を聴取し、連携の仕組みづくりに反映させたい。

2018(平成 30)年度から新潟日報夕刊「おとプラ倶楽部」と連携して、おとプラ倶楽部会報にて県内顕彰館を紹介している。2019 年度も継続予定。

(1) 第 5 回にいがた文化ネットワーク協議会の開催

2019 年度の国民文化祭を視野に入れ、顕彰施設及び団体との連携・交流の強化を目指し、2019 年夏季までには、第 5 回ネットワーク協議会を開催したい。

(2) 機関誌「にいがた文化 vol.5」の発行

2018(平成 30)年度の「にいがた文化 vol.4」は、4 ページ増で 2019 年 3 月末に完成(広告掲載は 21 社)。2019 年度の「にいがた文化 vol.5」でも、当館の事業報告と、県内顕彰施設や団体が実施する次年度の催し紹介を予定。広告掲載も継続していきたい。

顕彰人物選定委員会

【概略】

2019 年度も引き続き、県内出身またはゆかりの文化人基礎データ構築を進めたい。

顕彰人物選定委員会の立ち上げや発足については、データ構築の進捗状況をみて、2020 年度以降の発足を目指したい。

【参考資料】

別紙 1 「2019 年度 事業計画案（詳細）」

別紙 2 「2019 年度 にいがた文化の記憶館 企画展示スケジュール・開館カレンダー」